

ハームリダクションとは？

国際ハームリダクション協会 (International Harm Reduction Association)
による見解

ハームリダクション（危害削減）とは、その使用を中止することが不可能/不本意である精神作用性のあるドラッグの使用に関連するダメージを減らすことを目的とした政策・プログラム・その実践を意味する。ドラッグの使用そのものを避けることよりも、ダメージを防ぐことと、ドラッグを継続して使う当事者に焦点を当てることが明確な特色である。

注射によるドラッグ使用者の間だけでなく、さらに使用者を経て HIV 感染が拡大しているという脅威が初めて認識されたときから、ハームリダクションをめぐる議論が始まった。しかしながら、これまでも幅広い種類のドラッグに関連した多くの取り組みにおいて、同様のアプローチは長らく取り入れられてきた。

ハームリダクションは、ドラッグの使用量をあらゆるレベルで抑制・軽減することを目的とする他のアプローチを補完するものである。ドラッグの使用が始まること、そして継続することを予防するために最大限の努力が払われているにもかかわらず、世界中でたくさんの人が精神作用性のあるドラッグを使用しているという認識に基づくものである。ハームリダクションでは、ドラッグを使用する人の多くは、どのような段階においてもドラッグ使用を止めることが不可能/不本意となると捉えている。ドラッグの問題を抱える人にとって良い治療プログラムへのアクセスは重要であるが、その人は治療を受けることが不可能/不本意な状態であることが多い。

さらに、ドラッグを使用する人のほとんどは治療を必要としていない。必要なものとは、ドラッグを継続して使用することで生じるリスクや、自分自身または他人にダメージを与えるリスクを最小限にするサポートの選択肢を、ドラッグを使用する人に提供することである。それゆえ、ハームリダクションの情報、サービス、その他の介入は、人々の健康と安全を維持するのに役立つものとして不可欠な存在なのである。予防できることが原因で人々が苦しむことや命を落とすようなことは選択肢にはならない。ドラッグを使う人の多くは、ドラッグの使用量を減らしたり、ドラッグ使用に関連したリスクを軽減したりするために、インフォーマルで非臨床的なやり方を好むものである。

本文では、ハームリダクションの主要な特徴を簡潔にまとめており、また、違法薬物、アルコール、タバコ、医薬品を含め、精神作用性のあるすべてのドラッグが関連するものであるとしている。ハームリダクションの個別的な介入方法についてはドラッグごとに異なるものとなるため、それらについてのより詳細なガイダンスは IHRA (当協会) のウェブサイト (www.ihra.net) を参照願いたい。

定義

“ハームリダクション”とは、合法・違法に関わらず精神作用性のあるドラッグについて、必ずしもその使用量は減ることがなくとも、その使用により生じる健康・社会・経済上の悪影響を減少させることを主たる目的とする政策・プログラムとその実践である。ハームリダクションは、ドラッグを使用する人、その家族、そしてそのコミュニティに対して有益なものとなる。

原則

ドラッグに対するハームリダクションのアプローチは、公衆衛生と人権への強いコミットメントを基盤としている。

対象となるリスクとダメージ

ハームリダクションでは特定のリスクとダメージに焦点を当てアプローチしている。政治家、政策立案者、コミュニティ、研究者、援助職者、そしてドラッグを使用する当事者は、次のことを見定める必要がある

- 精神作用性のあるドラッグごとに、その使用に関連してどのような具体的なリスクやダメージがあるのか？
- そうしたリスクやダメージの原因はなにか？
- そうしたリスクやダメージを軽減するためになにができるか？

ハームリダクションは、そのリスクとダメージの原因に焦点を当てている。具体的なダメージとその原因を明確にし、適切な介入を決断するためにはきちんとしたアセスメントとアクションが必要となる。また、ドラッグを使用する人をより弱い立場へと位置づけてしまう特定要素

(たとえば、年齢、ジェンダー、受刑歴など)を考慮にいれ、具体的なリスクやダメージに対応できるようにハームリダクションによる介入を調整することが必要である。

実証性と費用対効果

ハームリダクションは、実用的で実現性が高く、効果的で安全で、そして費用対効果の高いアプローチである。ハームリダクションは、最良とされる科学的根拠に基づく政策や実践にコミットしている。ほとんどのハームリダクションアプローチは、低コストで、実行しやすく、個人とコミュニティの健康/保健にたいして大きなインパクトを与える。資源が十分に満ちあふれることのない世界において、高コスト/低インパクトな介入よりも低コスト/高インパクトな介入が優先されることで、最大の効果がもたらされることとなる。

漸進性

ハームリダクションを実践する人は、ある個人がその生活のなかでみせるポジティブな変化の重要性を認識している。ハームリダクションによる介入とは、強制されるものでなく、促されていくもの(促進性)であり、個人のニーズに基づく。それゆえに、ハームリダクションのサービスとは、その人が現時点の生活のなかで抱くニーズに対応するようにデザインされるものである。限定的な数人のための豪快な利益よりも、多くの人々に少ない利益が行き渡ることのほうが、コミュニティ全体にとっては有益となる。また、大きく数歩前進するよりも、小さなステップを積み重ねるほうが実行しやすい。そして、ある特定な状況においてはハームリダクションの目指すところが、一方では、より実行しやすいオプション(人の健康を維持する対策など)と、他方では実現性は低いが見望ましいオプションという階層構造のなかで調整されることもある。そうした構造のなかで、断薬は、達成困難だが望まれるハームリダクションのオプションとなり得る。ドラッグを使用する人の生存と、取り返しのつかないダメージを防ぐことは、さまざまな優先すべき重要なことがあるなかで、もっとも切迫した優先事項とみなされる。

尊厳と思いやり

ハームリダクションを実践する場合、ありのままのその人を受け止め、偏った(審判的な)捉え方はしない。ドラッグを使用する人はみな誰かの息子・娘、兄弟・姉妹、父・母である。このように思いやることは、ドラッグの問題を抱える当事者の家族やそのコミュニティに拡大していく。ハームリダクションを実践する際には、ドラッグを使用する人に対する意図的なステイグマには異議を唱える。“薬物乱用者”、“疫病神”、“ジャンキー”、“ヤクチュウ”あるいは“社会悪”などの言葉で人を言い表すことは、ステレオタイプを根付かせ、ドラッグを使用する人をサポートすることに対する障壁を築き、後退させてしまう。つねに尊敬と寛容の気持ちを込めた表現や用語を用いるべきなのである。

権利の普遍性と相関性

人権はすべての人にある。ドラッグを使うことで人権を失うことにはならない。それは、到達可能な最高水準の健康に対する権利、社会保障や就労に対する権利、科学の進歩による恩恵を受ける権利、独断的な収容や非人道的で自尊心を傷つけるような劣悪な治療から解放される権利を含む。ハームリダクションは、薬物のコントロールや予防対策という名のもとでドラッグを使用する人に課する作爲的な苦痛やダメージには異議を唱え、ドラッグ使用に対して基本的な人権を尊重・保護するような認識を押し広める。

ダメージを最大化する政策や実践との対峙

個人の行動や選択、ドラッグを使用する環境、薬物対策のための法律や政策など、ドラッグに関連するリスクやダメージは多くの要素から成り立つ。多くの政策や実践は意図的に、あるいは意図せずしてドラッグを使用する人に対するリスクやダメージを生み出し、増悪させている。そのなかには、ドラッグ使用の犯罪化、差別、警察の虐待的・腐敗的な取り締まり、拘束的・懲罰的な法律や政策、救命医療やハームリダクションサービスへの拒絶、社会的不平等などが含まれる。ハームリダクションの政策や実践は、個人の行動変容をサポートするものでなければならぬ。しかしながら、同時に、リスクの高いドラッグ使用が行われるような環境や、ドラッグに関連したダメージをもたらすような国際的な、あるいは自国内の法律や政策に異議を唱えることも必須である。

透明性・説明責任・参加

実践の場面や、何かを決定する場面では、なぜその介入をするのか・その決定をするのか、あるいはそれは成功したのか失敗したのか、実行する者はその説明責任を負う。ハームリダクションの方針は、開かれた意見交換、協議、討論を奨励するものである。幅広い関係者が、政策策定とプログラムの開発、実施、評価に積極的に参加する必要がある。特に、ドラッグを使用する人や関わりのあるコミュニティは、自身に影響を及ぼす決定に加わるべきである。